

根面齲蝕に対するオゾンとシーラントの併用治療*

Liviu Steier¹, Gabriela Steier²

¹ 歯科医院開業(ドイツ、マイエン)、² タフツ大学(米国、MA、メドフォード)

慢根面齲蝕は低粘性コンポジットレジンを使用して、審美的に治療を行う必要があることがある。

目的: 高齢者群(>60歳、平均年齢72.3歳、SD 5)の齲窩がなく、エナメル質がなめし革様の浅い初期進行性根面齲蝕(PRCL)を回復させるオゾン(ヒールオゾン™、カボデンタル社)の効果を全く同じ方法で評価し(J Dent Res 1993,73: 623-629)、その後、オゾン治療を行った歯に低粘性コンポジットレジンを充填してその後の状態を評価した。

方法: 齲蝕が2個ある62名の患者を被験者とした(合計124個のPRCL)。齲蝕を無作為にオゾン照射群とエア吹きつけ群の2群に割り付けた。一人の術者がオゾンを照射し、別の1名が臨床基準を用いて齲蝕の重症度を記録した。ベースライン時に治療を行い、ベースライン時と1ヵ月目に、齲蝕病巣部の硬さを軟らかい、なめし革様、硬い、のいずれかに分類した。1ヵ月目にエッチング後、Bond-ItとFlow-It(ペントロン)を用いて充填した。12ヵ月後に被験者をリコールした。

結果: 61名の被験者が1ヵ月後に受診した。有害事象は認められなかった。齲窩が硬くなり、レジンが保持されていた数はオゾン治療群では60個であったが、対照群では24個であった($p<0.05$)。56名が13ヵ月目のリコールに参加した。対照群では32個のうち8個で充填が部分的または完全になくなっていたが、治療群では充填剤が部分的または完全になくなっていたのは55個のうち2個のみであった。

結論: 表面がなめし革様で齲窩がない初期進行性根面齲蝕を全く同じ方法で治療したところ、オゾン治療後1ヵ月以内では、充填したレジンが保持されており、12ヵ月後のリコール時にもレジンが保持されていた。

発表: 2005年 IADR(ボルティモア)